

ふりがな 氏名	やまもと かずこ 山本 和子 (工芸)
功績概要	平成20年 作品集「森へいこう」(神戸新聞総合出版センター) 出版 出版記念個展(山陽百貨店美術画廊) 平成23年 兵庫県功労者表彰(文化功労) 平成25年 ひょうごアーティストサロン賞(協力者部門) 平成27年 『国画会 工芸兵庫の9人展ー染織・陶芸・木工』(兵庫県民アートギャラリー) 令和元年 兵庫県文化賞 令和3年 『兵庫県文化賞受賞 山本和子染織展『ひょうご～五国・森めぐり～』 (兵庫県公館) 昭和55年～平成29年 姫路市展公募委員・運営委員 その他、兵庫県工芸美術作家協会相談役 中学生の頃、東京の大学で年長の従姉妹が機を織る姿に憧れを抱く。姫路西高在学中、美術教師であった国画会所属の画家・尾田龍の下、手仕事の美に触れ、女子美術大学工芸科に進学し染織家・柳悦孝、柚木沙弥郎に師事。卒業後、姫路市を拠点に創作活動を開始し、国画会への出品を始め、更に柳悦博に師事。全国的に活動を広げた。 絹、毛、麻、木綿等の天然繊維の撚糸、合糸、精練、染色、織までを自ら手掛け、先染めによる組織織(そしきおり)の可能性を妥協なく追求する。半世紀以上にわたり制作し続けている「森へ行こう」と題した織物作品は、モチーフと織りと色彩の無限の組み合わせにより、見る人に自然の息吹や循環を想起させ、民藝運動に示された生活の中にある手仕事の健全な美しさを体現している。 岡山大学教育学部において非常勤講師、並びに兵庫大学短期大学部兼任講師として教鞭を取る他、「山本和子工房」を主宰し、後進の指導に当たる。また、播磨工芸会、兵庫県工芸美術作家協会、国画会等での活動においても、ジャンルを超えて工芸文化の振興と後進育成に注力してきた。 大量生産・大量消費・大量廃棄の経済システムの中で失われていく伝統がある中、長年にわたる播磨地域での工芸文化の継承普及と、播磨地域の文化振興と発展への貢献は極めて大きい。